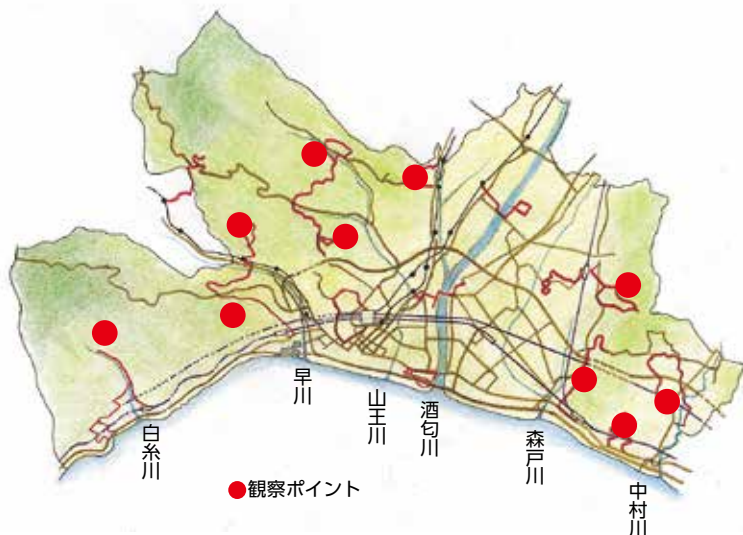


丘陵の自然観察

久野丘陵

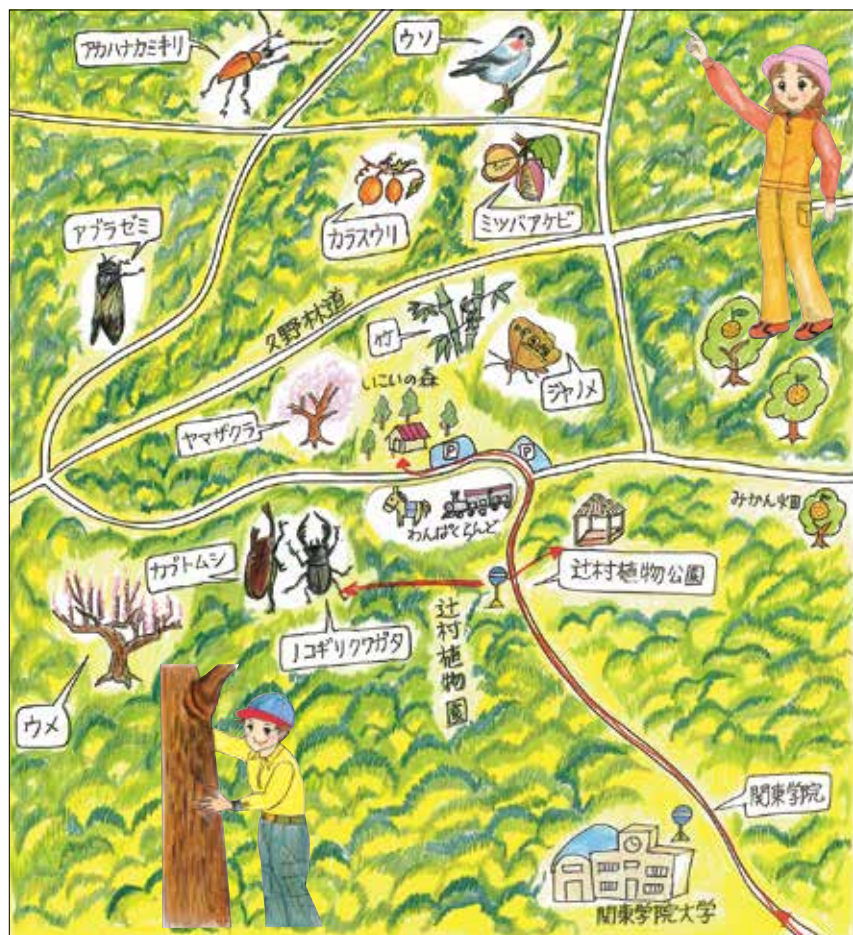


小田原の西部は、箱根外輪山から続く丘が広がり、東部の曾我丘陵にはなだらかな丘が続いています。人工林やミカン畑等の合間の谷筋や林には、豊かな自然があふれています。



丘陵の自然観察マップ

箱根外輪山の東斜面にあたる久野地域は、丘陵の自然を観察するには大変よい所です。そこにある公園などの施設を活用し小田原の豊かな自然を満喫しましょう。



行き帰り バス停「いこいの森」利用

注意 草むらが多いので服装をしっかりと整えましょう。

雑木林の自然

いこいの森



小田原東部の丘陵や西部山地の山裾には、スギ・ヒノキの人工林の間にクヌギやコナラの植えられた雑木林が点在しています。近頃そこは、下草刈をしていないところが増え、自然観察には良い場所となっています。



雑木林の植物

雑木林は、クヌギやコナラ、イヌシデが多い。かつてこれらの落ち葉は堆肥として、木材はまきや炭、シイタケの原木として利用されてきました。最近はその利用も少なくなり、杉やヒノキの植林地と変わっていき、それにともない雑木林の植物の種類も少なくなってきました。



クロモジ（4月）

早春に花を咲かせます。樹皮^{じゅひ}によい香りがあるので、上質のつまようじの材料に用います。



ヤブレガサ（4月）

芽の出たてのころは、すぼめた傘^{かさ}が林のあちこちに立っているように見えます。

でもそれは、やぶれた傘です。



イノデ（4月）

芽の出たての様子がイノシシの手のように見えるところからこの名がつけられました。

イノデの仲間には多くの種類があります。



キブシ（4月）

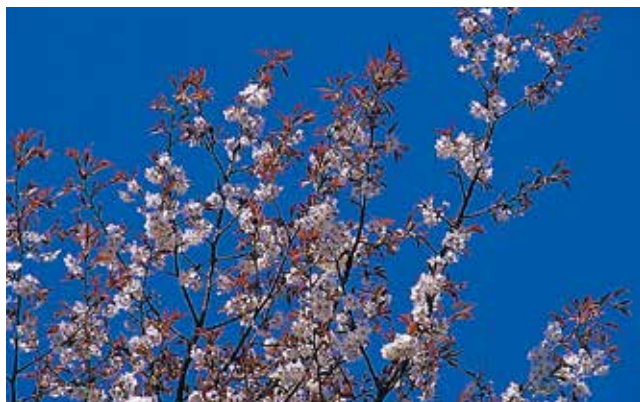
早春の訪れをつげる花。雌雄異株です。タンニンの原料フシの代用にするところから、木ぶしと名づけられました。



シバヤナギ(4月)

富士箱根火山帯に固有な植物の一つです。

フォッサマグナ地域の植物で崖地（がけち）に多く見られます。



ヤマザクラ(4月)

赤かっ色の葉と、同時にうすい紅色の花を咲かせ、ひときわ目立ち、春の訪れをつげます。



ゼンマイ (4月)



ワラビ (4月)

どちらもシダ植物で、春の山菜の代表的な種類です。ワラビは日当たりのよい草地に、ゼンマイは林の中のやや日かげに、主に生育します。



シュンラン(4月)

しゅんらん
春らんの意味で、明るい林の中に見られ、花の中の赤紫色の斑点が多く見られることからホクロともいいます。



イチリンソウ(4月)

かつてはどここの雑木林にも見られました。しかし、今ではまれにしか見られません。葉のうえに一輪の花を咲かせます。



コケリンドウ（４月）



フデリンドウ（４月）

春の日だまり
に咲くリンドウ
ですが、背丈は
数センチメー
トルで、目に
つきにく
いです。

花は青く、星
のようにかが
やいています。



ナツウダイ（４月）

赤みがかった
芽だちから燈台
は連想できませ
ん。この燈台は、
むかし明かりに
使った燈架のこ
とです。



コバナツナミ
（４月）

ビロードタツ
ナミソウともい
い、一方向に立
ち並ぶ花のよう
すから、押し寄
せる波がしらに
見たてて、名づ
けられました。



**シロバナハンシ
ヨウツル** (5月)

林の周辺の木
にからみつき、花
が火の見やぐら
の半鐘に似るとこ
ろから名付けら
れました。園芸種
のクレマチスと同
じ科です。



ホウチャクソウ (5月)

白く下を向い
て咲く花の姿を
寺の五重塔ごじゅうのとうのの
き下にさがって
いる風鈴に似た
宝鐸ほうとくに見立て名
付けられました。



シャガ (5月)

湿った杉林に、
大群落を作っ
ていることがあ
ります。

緑の葉の上に
群れて咲く花は、
まるで天の川の
星を見るよう
です。



ヤマツツジ（５月）

新緑の中にひとときわ赤い花はよく目立ちます。花の色は個体によって濃い^こ薄い^{うす}の変化があります。



エゴノキ（５月）

下向きに白い花を咲かせ、果^か皮^ひはえぐいのでこの名があります。



スイカズラ（５月）

よい香りをはなつこの花には、蜜^{みつ}があって、子どもが蜜を吸って遊ぶことからこの名があり、花は白からやがて黄色に変わります。



テイカカズラ

（５月）

風車^{ふうしゃ}のような花からはよい香りがただよいます。

名前は藤原定家^{ふじわらてい}に由来^かします。



クサボタン (9月)

葉がボタンの葉に似ているのでこの名があり、花は紫色です。



コシオガマ (10月)

秋に紅紫色の花を咲かせる半寄生の植物です。



センニンソウ

(9月)

夏から秋にかけて白い花を咲かせます。仙人草と書き、果実の白い毛から名づけられたものでしょうか。



イラクサ(9月)

葉や茎には、トゲのような毛が生えていて、刺さるととても痛く、その痛みはしばらく続きます。



ウバユリ （7月）

夏にテッポウユリを思わせる花を咲かせます。花の咲くころには、葉がかれて落ちてしまうことから、葉を齒になぞらえ、齒のない姥（うば）にたとえて名付けられました。



ヤクシソウ （10月）

日あたりの良い道ばたや土手に多く見られ、薬師草（やくし）と書きます。



アキノキリンソウ （10月）

日あたりのよい場所を好み、黄色い小さな花をたくさんつけます。

タムラソウ （9月）

草原によく生育します。ちょっと見るとアザミに似ていますが、葉にとげはありません。



ミツバアケビ(10月)

一枚の葉が三つの小葉にわかれるアケビの意味で、5つにわかれるのがアケビです。両者の雑種がゴヨウアケビです。



カラスウリ(12月)

赤く熟した果実の種子はカマキリの頭や大黒天だいこくてんの打ち出の小槌そうぞうを想像する形をしています。花は夏の夕方、見ている間に開花します。



キカラスウリ(12月)

黄色いカラスウリの意味で、根からとったデンプンを天瓜粉てんかふんといいます。

この仲間は、雌メ雄オ異株いしゆです。



サルトリイバラ (10月)

紅色の実美しく、生け花に使われるほどです。ツルにとげがあり、サルもひっかかってしまいそうです。スキとともに供えます。



ガマズミ (10月)

ヨウゾメ、ヨトズミなどと呼ばれることもあります。十五夜にスキとともに供えます。



ヌルデ (9月)



ハゼノキ (12月)

ともにウルシ科の樹木です。皮膚の弱い人は、この樹の汁でかぶれることがあります。ヌルデの葉には翼があるのですぐわかります。ハゼノキは、小田原付近で紅葉する木の代表格です。



ホラシノブ (12月)

洞しのぶの意味で、崖や斜面に好んで生え、冬の寒さにあうと、赤変して美しくなります。



シシガシラ (12月)

放射状に出た葉を、獅子のたてがみにたとえた名前です。胞子をつける葉が中央に出ます。



フユノハナワラビ (12月)



オオハナワラビ (12月)

ともにシダ植物です。形は普通のシダとは異なり、胞子のみをつける葉と、栄養分を作るための葉とに別れています。オオハナワラビは、葉のふちにとがったきょ歯があり、区別は容易です。



イゼンリョウ

(3月)

^{だんち}暖地の木かげに生え、小田原付近ではまれな樹木です。

伊豆から西には多く生育します。



ヤドリギ(1月)

ケヤキやエノキ^{きせい}に寄生します。木々の葉が落ちた冬が観察のよい時期です。まれに実の赤いアカミノヤドリギがあります。



オオバヤドリギ

(1月)

どんな木にも寄生してしまうようです。小田原はこの植物の北限に近く、小田原高校の森ではよく観察できます。

ドングリの話

コラム



ドングリは、今では、シイやカシの仲間の実をまとめた言い方で、代表的なのは、丸くて大きいクヌギのドングリです。小田原高校から城山公園にかけては、ほとんどのドングリが観察できます。この実から、コマややじろべえを作ります。シイの実は、食べることもできます。

アラカシ



シラカシ



イチイガシ



ドングリの種類

1. クヌギ
2. コナラ
3. スダジイ
4. マテバシイ
5. アラカシ
6. シラカシ
7. ウラジロガシ
8. イチイガシ

私たち日本人は、野山に咲く花を愛し、それを生活の中に取り込んでいました。また、軽やかに舞うチョウに春を喜び、木で鳴くセミの声に暑さを忍び、青い空に飛ぶ赤トンボに秋の訪れを感じていました。そして、暗闇で明滅する淡いホタルの光に寄せる思いには深いものを持っていますし、野山を飛ぶ鳥に生きる喜びや未来の夢をたくし、地域に育つ大木に不思議な力を感じみんなで大切にしてきました。このように、自然と一緒に生きて、すべての生き物を「なかま」として自然の命大切にしてきたのが日本人なのです。

しかし、今や人々の暮らしや文化が変わり、環境の汚染やコンクリート化が進み、周りから生き物の姿が消えつつあり、自然の中で舞うチョウやトンボやホタルを見ることはだんだん夢のようになってしまいました。小田原の豊かな自然の姿は地域にすむ長老の話の中でしか感じるができなくなってしまっているように思います。

近年、このまま自然環境を変え続けると人間そのものが地球上で生き続けられなくなるのではないかとということが分かり、あちらこちらで自然や緑を守るいろいろな取り組みが行われるようになってきました。

小田原市でもビオトープ（生き物のいる場所）を造ったり、生き物が住める用水路の改修や自然公園を建設したりしています。また、地域の方々が河川の清掃活動をしてくださっていますし、落ち葉や生ゴミの再利用などが行われています。

色々な生き物がすんでいる自然豊かなきれいな場所は、私たち人間にとっても大切なところなのです。



おだわら諏訪の原公園

雑木林の虫



雑木林 昼のパーティ



雑木林 夜のパーティ

樹液を出す木には、虫が多く集まります。昼でも、夜でも、常にお客でいっぱいです。カブトムシ、クワガタムシを観察するときには、スズメバチに注意しましょう。

ふだんは、木の皮のように見せかけるガも、派手な下の羽を見せながら、樹液争いに加わっています。



キシタバ

木の皮のようなガ。下の羽が特徴です。



コロギス

木の上に住んでいます。後足で葉をたたきます。



オオスズメバチ

日本のハチでは最大種です。

ベニスズメ

夜、活動するガの仲間です。



(オス) **カブトムシ** (メス)
夜間に活動し、樹液や果物に集まります。水銀灯の下にも集まります。



(オス) **ミヤマクワガタ** (メス) **ノコギリクワガタ**
クヌギ、コナラなどの樹液に集まります。成虫になるまで、約4年もかかります。樹液に集まります。大きさに差があります。



(オス) **コクワガタ** (メス) **ヒラタクワガタ**
クヌギ、コナラの樹液に集まります。冬越しもするので、大切に飼ってみましょう。樹液に集まります。



アブラゼミの羽化



アブラゼミの成虫
ジジジと鳴きます。



アブラゼミの交尾



クマゼミ
街中にも増えました。
シャーシャー鳴きます。



ツクツクボウシ
夏の終わりにツクツ
クホウシーと鳴きます。



ニイニイゼミ
夏のはじめからチー
チーとよく鳴きます。

ヒグラシ
杉林などで、朝方と
夕方カナカナ鳴きます。



ミンミンゼミ
8月頃ミーンミー
ンと鳴きます。



オサムシの一種

夜間活動し、ミミズなどを食べます。



マイマイカブリ

夜間活動し、カタツムリなどを食べます。



ミヤマフキバッタ

下草や低い木の葉の上にいます。



アカハナカミキリ

林内をよく飛び回ります。



ウバタマムシ

松の木の近くで身をかくしています。



タマムシ

エノキの近くで時々見かけます。



ジョロウグモ

大きいのはメスで、はり金のようなのがオスです。



ヤマシロオニグモ

夏の山道に巣をはっていることが多く見られます。



ザトウムシ

クモの仲間のように見えますが、ダニながの仲間です。



ヒメウラナミジャノメ

林の周りやススキ
の間を低く飛びます。



ヒメジャノメ

明るい林の周りをは
ねるように飛びます。



コジャノメ

暗い林の中をはね
るように飛びます。



クロヒカゲ

ササ類の多い林を
夕方飛び回ります。



サトキマダラヒカゲ

メダケ類の多い林
にいます。



クロコノマチョウ

南の地方のチョウですが、こ
のごろ小田原でも見かけます。

上の6種は、暗い色をしています、チョウの仲間です。ガとチョウの見分け方は難しいのですが、次のようなポイントで見分けると良いでしょう。

- (1) チョウは、体が細長く、毛は、あまり生えていない。
- (2) 触角の先にふくらみがあるものは、チョウが多い。
- (3) 幼虫から成虫に変わるとき、さなぎを作るのはチョウに多い。ガは、まゆを作るか、土の中でさなぎになるものが多い。
- (4) チョウは、めったに夜とばない。(昼とおガはいる)



コミスジ

3本のすじがきれいなチョウです。



キタテハ (夏型)

夏型は、樹液を好みます。



キタテハ (秋型)

秋型は、花のミツを好みます。



ルリタテハ (ピニールの上)

なわばりをつくり直線的に飛びます。



ゴマダラチョウ

樹液に集まり、花にはあまり来ません。



サカハチチョウ

さかさの「ハ」の字が特徴です。



ウラギンシジミ

オスは、オレンジ色。メスは、青白色のはねをしています。直線的に飛びます。



ムラサキシジミ

表のはねは、きれいな紫色をしています。



ヨツスジトラカミキリ

ハチにそっくりな
カミキリムシ。葉の
上にいることが多い。



ルリボシカミキリ

青色の美しいカミ
キリムシ。くさった木
などいることが多い。



ミヤマカミキリ

大きなカミキリム
シです。樹液にやっ
てきます。つかむと
ギーギー鳴きます。



ベニカミキリ

クリやネギなどの
花に集まります。幼
虫はタケを食べます。



ラミーカミキリ

帰化昆虫です。カ
ラムシ (ラミー)、ム
クゲに集まります。



ジョウカイボン

この仲間はほかの虫
をつかまえて食べます。
体が柔らかい甲虫です。



オオホシカメムシ

人の顔に見えます。
アカメガシワや灯火
に集まります。



トゲナナフシ

かれた枝にそっく
りです。秋になると
雑木林で目立ちます。



アオカミキリ

金属的な緑色のき
れいなカミキリムシ。
色々な花に集まります。

最近よく見かけるようになった植物

コラム



ペラペラヨメナ

石垣の石のすきまに根をはり、一年中花を咲かせています。



アカバナユウゲショウ

道端や荒地で小さな赤い花を咲かせる、マツヨイグサのなかまです。



ナガミヒナゲシ

初夏のころ、うめ立てをした造成地や道ばたに咲いています。ポピーと同じケシ科の植物です。



イヌホウズキ

ナス科の植物。黒く熟す実がホオズキに似てるとか。



ウラジオチチコグサ

花の色が茶色をおびています。葉のうらが綿毛で白く見えます。



ムラサキハナナ

春早く土手等で群れて咲いています。オオアラセイトウともいわれています。

身近に自然を取り戻そうとする取り組みがビオトープ（生き物のいる場所）づくりです

（１） 報徳小学校のビオトープ（報徳ランド・報徳の池）

平成5年中庭に井戸を掘り、水の流れや池を造りました。池や周辺には水生植物や地域の草木を植え、酒匂川水系のメダカを放流しました。

ゲンゴロウの仲間なども見られるようになってきました。



（２） 千代小学校のビオトープ（ほたる^{でん}田）

平成6年学校の裏にあった休耕田と井戸を借用し、流れや池を造りました。周辺は、自然状態を保つようにし、歩く所には木道を造りました。一部は実習用の水田や畑にしています。



（３） 下曽我小学校のビオトープ（自然ランド）

平成17年にプール横の市営住宅跡地に子どもの思いを生かした自然ランドをつくりました。古井戸を改修し、その水を流して小川や池をつくり、木を植えて生き物の来る場所にしました。クロスジギンヤンマが羽化し、放流したホタルも飛び始めました。



雑木林の鳥

クヌギ林に代表される雑木林では、秋から冬になり落葉すると林の中の見通しもよくなり、シジュウカラ、エナガ、コゲラなどが、一緒に餌を探して移動する姿なども見られます。また、カシラダカやイカル、シメなども見かけることがあります。



ルリビタキ <冬鳥>

オスの背中では明るいブルーで脇はオレンジ色をしています。嘴は黒色で細く、脚も黒色で細長いです。地面に降りて餌も捕りますが、樹上で木の実も食べます。



ウグイス <留鳥>

体全体は暗い緑色をしています。ホーホケキョウと鳴くのは有名ですが、冬にはヤブや垣根の中でチャッチャツと鳴いています。



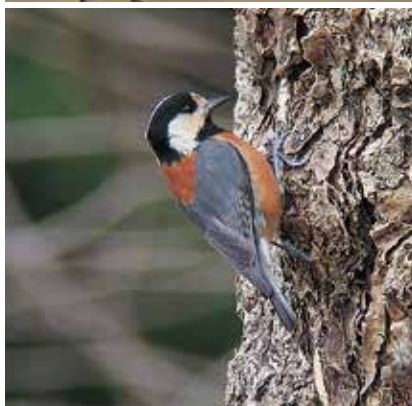
エナガ <留鳥>

背中から尾は黒く、頭から腹にかけては白いです。尾がひしゃくの柄のように長くジュリツジュリと鳴きます。冬は色々な鳥と一緒に餌を求めて移動します。



シジウカラ <留鳥>

喉から腹にかけてはネクタイのような黒い線があります。ツツピー、ツツピーと鳴き、地上でも餌を捕ります。巣箱もよく利用します。



ヤマガラ <留鳥>

顔はクリーム色で、喉は三角に黒く、胸から腹はオレンジ色です。ニーニーと鼻にかかったような声で鳴いたり、ツツピーン、ツツピーンとゆっくり鳴きます。



ホオジロ <留鳥>

目を通る線は黒く、その上下が白いです。繁殖期には木の梢などで鳴きますが、冬には明るい草原や下草の中でチチッ、チチッと鳴きます。ホオジロのさえずりは、「札幌ラーメン味噌ラーメン」など、様々な聞きなががされています。



カシラダカ <冬鳥>

ホオジロに似ていますが、頭の毛が立っていることと、お腹が白いことで区別できます。冬には群れでいることが多いです。地上で草の実を探して食べます。



カワラヒワ <留鳥>

全身が緑色がかった茶色で、飛ぶと翼に黄色い帯が見えます。木の上やアンテナの上で、強くビーンと鳴いたり、キリキリ、コロコロと飛びながら鳴いたりします。



ウソ <冬鳥>

頭や翼・尾が黒く、背中は青色。嘴は太くて短く、頬が赤いです。フィーツ、フィーツと口笛を吹くように鳴き、春先には桜のつぼみなどを食べにやってきます。



シメ <冬鳥>

頭が大きく、全身がずんぐりしています。太くてがっしりした^{くちばし}嘴で、プチッ、プチッまたはチチッと鳴き、大きな波型を描いて飛びます。



イカル <留鳥>

黄色くて太いくちばしと長めの紺色の尾が目立ちます。^{かた}堅い木の実を好んで食べ、コーキーコ・キィーとよく通る声で鳴きます。波形に飛びます。



トラツグミ <冬鳥>

体は茶色に黒の横しまや三日月のしまがあります。平地から山地の比較的暗い林で見られます。落ち葉をくちばしでめくって、えさをさがしたりします。夜に「ヒー、ヒョー」と口笛のような声でさえずります。



オナガ <留鳥>

名前の通りに尾の長い鳥です。頭は帽子をかぶっているように黒く、翼と尾は空色です。ギューイ^{つばき}と濁^{にご}った声で強く、大きく鳴きます。

特定外来生物(外来種)の話

コラム



ソウシチョウ



ガビチョウ

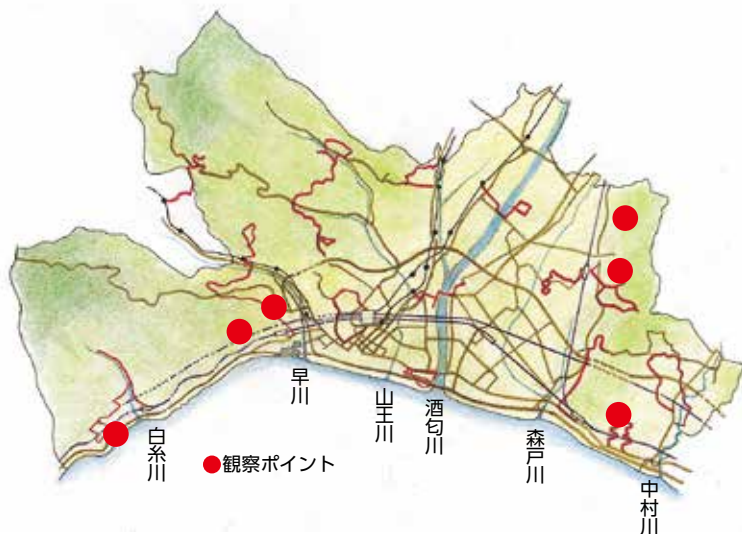
きれいな声で鳴き、姿も美しいのですが、彼らはもともと日本にいた野鳥ではありません。人為的に日本に持ち込まれ、やがて野生化したもので、特定外来生物に指定されています。彼らの繁殖^{はん}が増え続けると、日本で生息域^{せいそくいき}が重なるウグイスやツグミ類などへの影響が心配されています。

ミカン畑の自然

早川のミカン畑



小田原の丘陵の多くはミカン畑として利用されています。そこでは、溜め池や周辺の雑木林を利用した生き物がたくさん観察できます。作物を傷めたり、農作業のじゃまをしないように気をつけて、自然観察を楽しみましょう。



ミカン畑の虫



ゴマダラカミキリ



ノコギリカミキリ



ミヤマカミキリの仲間

日中よく飛び、ミカン、 後ろあしと羽をこ 間ウスバカミキリ
バラ類をかじります。すって音を出します。 夜間活動します。



鋭いあごを持ち、髪の毛を切ることができることから、カミキリムシと呼ばれます。でも、いじわるしなければ、まずかまれることはありません。

ゴマダラカミキリは、ミカンの木に大きな被害を与えるため、ミカン農家が子ども達に駆除を手伝ってもらった時期もあったそうです。

シロスジカミキリ



チョウガタシロカネグモ

水平に円い網をつくり
ます。



ヤブヤンマ



カトリヤンマ

やぶを好み、なわ 夕方力をねらって
ぱりをもちます。 飛びます。

ミカン畑のため池で

幼虫が育つようです。



成虫
幼虫



アゲハ (ナミアゲハ)

キアゲハ

春型は、夏型に比べて小さいです。キアゲハの方が色が濃いです。



モンキアゲハ



オナガアゲハ



クロアゲハ

捕まえた時の手ごたえが大きいチョウです。好みます。

夏型は、暗い所を

赤い色の花によくみつを吸いに来ます。

アゲハの仲間を紹介しましたが、この中で、ミカンの葉を食べて育っているのは、アゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハなどです。



カラスアゲハ



アオスジアゲハ

素早く飛ぶので、写真^とを撮るなら、水を飲んでいるときが一番です。



アケビコノハ (幼虫と成虫)

木の葉そっくりのガになります。幼虫の目玉模様がユニークです。



(幼虫)



(成虫)

ジャコウアゲハ

毒草であるウマノスズクサを食べて育つため、鳥におそわれにくい。



ナガサキアゲハ

最近、小田原で見かけるようになりました。ミカン畑で飛んでいるのをよく見かけます。



アゲハモドキ

ジャコウアゲハにそっくりですが、ガのなかまです。



イタドリハムシ

イタドリやスイバ、ギシギシの葉を食べます。



オオトビサシガメ

大きなサシガメです。小さな虫を捕らえて体液を吸います。



オオハキリバチ

松ヤニを集めて、竹筒の中に幼虫を育てる部屋を作ります。



カツオゾウムシ

赤色の粉は落ちやすく黒くなります。イタドリの葉を食べます。



キバラヘリカメムシ

マユミやニシキギの汁を吸います。



トウキョウヒメハンミョウ

近づくによく飛び、



キクスイカミキリ

胸の赤い紋が特徴。ヨモハエのように見えます。ギヤキクの茎をかじります。

清流の自然

小田原の丘陵には、きれいな水の流れているところがたくさんあります。そこには多様な生命が育まれていますので、自然観察には最も適した場所になります。



久野川上流



白糸川の上流

清流の虫や生き物



水中に腹をさし込み、水底に卵をうみます。

オニヤンマの産卵



水中でくらしていた幼虫が羽化したもの。

ヒゲナガカワトビケラ (P72参照)



オオヤマトンボ

金属的な緑色の模様がオニヤンマと違います。



ミルンヤンマ

山地の小さな沢に発生し、昼間は、こずえにぶら下がっています。



モンカゲロウ (成虫は亜成虫)

亜成虫の後にもう一度皮を脱いで本当の成虫になります。幼虫はエラが大きく、口部がとがっています。



成虫



幼虫

ヘビトンボ

つかむと頭をひねってかみつきます。気をつけましょう。



成虫

幼虫

ツノトンボ

触角が長いのが、特徴です。
カゲロウの仲間です。

ウスバカゲロウ

幼虫（アリジゴク）は、神社などの乾いた地面にいます。



ゲンジボタル(メス)

ハイケボタル

ヒメボタル

これらのホタルは、卵、幼虫、さなぎ、成虫のすべてが光ります。光るのは、オスとメスとの交信のためと考えられています。



カワトンボ

地域によって、羽のもようや胸の色が違ふと考えられています。



ミヤマカワトンボ

褐色の羽の色と金属的な体の色が渓流を飛ぶとききれいです。



(幼虫)



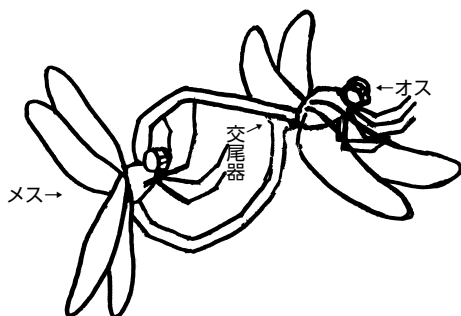
ハグロトンボ



オオアオイトトンボ

酒匂川の中流にもいました。左の写真は薄暗い所に多く、植幼虫が羽化のため、木にのぼったところです。物の中に産卵します。

トンボのオス・メスの見分け方



メスには、腹の先に生殖器が有り、オスには、腹のつけ根に副生殖器があります。



イトトンボの交尾



ナミウズムシ（プラナリア）

溪流の石の裏側で生活し、きれいな水の指標生物です。



ガガンボの幼虫

空気呼吸をします。成虫は大きな蚊のような形をしています。



コオニヤンマのヤゴ

枯れ葉のように扁平な独特の体形をしています。



ヤマトクロスジヘビトンボ

強力な口器でカゲロウ類の幼虫などを捕食します。



ヒラテテナガエビ

酒匂川下流部はテナガエビ、本種は流れの早い白糸川産です。



タカハヤ

山地の溪流に生息し、白糸川は太平洋岸の分布の東限です。

丘陵地のキノコ



ドクツルタケ

夏から秋に林床で見られます。
毒が強いので要注意です。



オニフスベ

直径30cmぐらいの大きさに成長します。



コガネタケ

びっくりするほど大きく黄色なカサを開きます。



イヌセンボンタケ

枯れ木に群生する様子が面白いキノコです。



カワラタケ

サルノコシカケの仲間です。
屋根瓦みたいです。(薬用)



ホコリタケ

草原などにボールの様なカサをつけ、穴から胞子を飛ばします。